

## 月手取り7万円/求人進まず重労働

### 産業構造

ひとり親の女性(60代)は毎朝8時半ごろ、陣がいのあるバスをダイヤアに乗り出す。職場のホテルへ行く。9時前に職場に滑り込むと食堂で散乱したゴミを集め、家具の位置を戻して床や浴室を清掃しベッドを整える。ガラスや鏡を磨いて新しい客を気持ちよく迎えられるよう仕上げると、思いつく限りの次の部屋へ移る。

チェックインに間に合わせるため仕事は時間との闘いだ。休憩を取る間も惜しんで作業し、一息つけるのは午後3〜4時。「戻って昼食を取れないのがつらい」

女性の契約先は人材派遣会社だ。時給は最低賃金から始め、数年かけてようやく700円。月の手取りは7万円ほどで「とても生活できない」。観光客の増加で最近はお客のことも多い。勤務時間内にはとても終わらないが残業は出ない。「業界はもうかつているかもしれないが、働く人には還元されていない」と感じている。

人手不足の中、別のホテル

**希望**  
この手に  
沖縄の貧困・子どものいま  
第2部 ⑤

# 「生活できない」

## 好況も変わらぬ苦境

では時給千円の求人が出たのも聞いた。だがこれまでの求職活動で、子どものダイヤアが休みになる土日や、通院のための休みを取れる職場はほとんどないと痛感してきた。

「これだけ都合を聞いてもらえる職場は他にない」。賞金だけでは職場を渡べない。ホテルの直営雇用のパートで客室清掃をする別の母親(46)は職場の人間関係が良く、助け合って仕事を終わらせ、終業時間に退社できる日がほとんどだ。だが時給はやはり700円ほど。ここでも

た。「その時は週1日程度しか休みを取らず、体調を崩す回数も多かった」。好景気が途に苦境を招いていた。

◇ ◇

沖縄県経済が今までになく好調だ。沖縄労働局が1日に発表した1月の県内の有効求人倍率は0.9倍で県内で過去最高水準を維持し、求人も過去最高。

けん引するのは観光業だが「ホテルの客室数が増える」と清掃人の数を増えている。と清掃管理会社の社長は人材確保に頭を抱える。人手が足りず多

待遇改善には結び付かない。「観光業の給与水準は低く人も集まりにくい」と社長は実情を説明する。

そもそもサービス業は商品に付加価値を付けにくく他産業に比べて賃金が低くなりがちだ。総務省の就業構造基本調査(2012年)では、宿泊・飲食業の税込み年間所得が全国、沖縄ともに他産業より低い50〜99万円に1桁があり、沖縄は中でもこの業種の従業員が突出して多い。全国は所得の山が300〜399万円の製造業や建設業で多

沖縄国際大の前泊博教授は「観光立国というが、観光産業など第3次産業は雇用効果が高いが世界的に低賃金で、所得の低い階層を生み出す」と県内の産業構造を問題視する。賃金が注目されている今こそ産業構造を見直し、企業は生活を保障する生活給を確保できる仕事を提供する必要がありますと指摘する。

前出の社長は「観光は災害や事件の影響を受けやすく、人件費を増やすことには及び聞くなる。だが賃金を上げ、労働環境を整えて人を確保しないと業界が成り立たない。人にコストをかけることで仕事が回り、ゆくゆくは利益も出るはずだ」と希望をつないだ。

客は増えるが求人が進まず、人手が足りない時期がある。忙になる一方、時給はさほど上げられず、働く人の大幅な

いのにに対し沖縄は全国よりも低所得層に偏っている。

(子どもの貧困取材誌) (火く金儲け誌)

